

国内 10 プロジェクト

全国各地で、森林保全活動への取り組みに加え、環境学習や資源循環の仕組みを学ぶ活動に広がりが出てきています。また、学生を中心とした企画も生まれ、COSMOエコ基金の支援を持続可能な未来をつくる活動へつなげていきます。



6 兵庫県 人と動物が共生する「安賀彩りの森」

特定非営利活動法人 奥播磨夢倶楽部

「生物多様性と環境保全」ワークショップで生態系の調査も始めました。

夏の猛暑や大雨などの天候不順の影響もありましたが、果樹を守る防護柵の設置や散策道の整備は予定どおり実施できました。また刈り取った草で堆肥づくりを行うなど、資源循環を体験できる森林整備が進んでいます。

新たに始めた「生物多様性と環境保全」のワークショップも、姫路市立手柄山植物園の研究員を講師に迎え盛況でした。また、里山保全の活動メンバーも70代以上のシニアから20~50代に交代しつつあり、ボランティアには現役世代からの問い合わせが入っているとのこと。課題であったメンバーの世代交代も進み、将来に向けた体制づくりにも取り組んでいます。



左より、入船諒さん、大橋佑輝さん、和井秀明さん、山内一輝さん、春名千代さん

ご支援ありがとうございます！
1年通じて楽しめる彩りの森づくりと森のエコカフェの整備に取り組んでいます。

里山の保全面積
10,000m²



7 徳島県 地域住民で守る神山の里山保全

認定特定非営利活動法人 グリーンバレー



左より、齋藤 郁子さん、ヴァレリー・テレさん

あたたかなご支援、ありがとうございます。
おかげさまで、森の中に水と風の流れが生まれ、年々、生物多様性が豊かになってきました。異なる世代の町民が集う場にもなっています。

水源地の整備で森も健康になり薪調理場や薪風呂も完成しました。

放置されあきらめかけていた森林に入り、地域の皆さんと一緒に間伐、下草狩りなどの整備を行いながら、自然エネルギーの活用方法も体験できる活動を行っています。今年度は水源周辺の森の整備を進めた結果、湧水が出るようになり、森の中の棚田で米作りにも取り組みました。生息する動物や植物も増え、夏にはホタルも観察できました。また、乾燥小屋や自然水道を整備し、間伐材を有効利用する薪調理場と薪風呂も完成し、「森のサウナ」のYouTubeは26万回も視聴されました。森の恵みを活かせば、水も食べ物もエネルギーもつくり出せることを、共同作業を通して多くの方に実感していただいています。

自然エネルギーの活用
自然水道の整備、
薪風呂と調理場の完成



8 和歌山県 生物多様性を体感できる森づくり

特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ピオトープ孟子

多くのチョウが生息する環境を里山の整備で守ることができました。

今年度は、長年整備を行ってきた孟子不動谷の「やすゆき公園」で生態系の観察基準となるチョウ類の調査を8回に分けて行いました。調査には県立向陽中学校理科部の生徒たちも参加して、自然環境の指標としているゴイシジミ、サツマシジミ、コムラサキ、ヒョウモンチョウ類など42種のチョウを確認しています。ゴイシジミの確認は3年ぶりです。これまで確認できたチョウ類も半分以上が生息しているとわかり、公園周辺のチョウの多様性をしっかり守ることができました。引き続き、やすゆき公園エリアの整備を進めながら、動植物の調査を行い子どもから大人まで生物多様性を体験できる里山づくりを行っていきます。

水辺ピオトープ(とんぼ池)は、稲作水系に依存する生物(ニホンアカガエルなど)を保全するために同会が掘削管理している自然再生エリアで、助成をいただいている「未来遺産運動」の主要活動拠点です。本年2月には和歌山県レッドデータブック絶滅危惧1類・ニホンアカガエルが400個産卵しているのが確認できました。令和6年度の助成ではこの背後にある「ふゆみずたんぼ」の整備とモニタリング調査をさせていただきます。



左より、山本 昌寛さん、坂本 雅城さん

生息を確認できた
環境指標となるチョウ類

42種

9 滋賀県 学ぶ、守る、つなぐ、琵琶湖の水

認定特定非営利活動法人びわ湖トラスト



ソーラーボート大会に参加したびわ湖トラストの学生メンバー

いつもあたたかいご支援、ありがとうございます。
びわ湖トラストは、仮想空間と実空間をつないだソーラーボート大会の実施と、波力ポンプを用いた自然エネルギーの利用を行っています。

自然エネルギーで走る模型ソーラーボートレースで琵琶湖の自然や環境を考え体験しました。

無人の模型ボートを太陽電池で走らせて、水中に入る太陽エネルギーの大きさや自律型水面ロボット制御について学習し、湖沼や海洋の自然と触れあうことを目的に開かれている「ソーラーボート大会」。今年は琵琶湖畔で開催される本選に先駆けて、びわ湖トラストの学生メンバーの発案で実行委員会をつくり予選をバーチャル空間で行いました。その結果、大会には国内外から300名が参加、YouTubeによる配信の視聴者は約200名にのぼりました。本選では、大学生や造船会社の社員チームも参加し、子どもたちと一緒に熱戦を繰り広げました。

中高生のソーラーボート大会
参加者
300名

